

## 令和6年度【大田区立東調布第一小学校・理科授業改善推進プラン】

### ◎ 小学校理科における分析

| 内容別結果の分析 | 物質とエネルギー                                                                                            |                                                          | 生命と地球                                                                                           |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          | どの学年も全国平均・大田区平均を上回る正答率を示しており、おおむね良好である。しかし、5年生は目標値には1.1ポイント届かなかった。特に「電気のはたらき」「物のあたためり方」の単元正答率が低かった。 |                                                          | 4・6年生は目標値を上回り、おおむね良好な結果となった。5年生は区平均を上回ったものの、全国平均より1ポイント下回った。特に「動物のからだのつくりと運動」「月と星」の単元の正答率が低かった。 |
| 観点別結果の分析 | 知識・技能                                                                                               | 思考・判断・表現                                                 | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                   |
|          | 4年生・6年生の知識・技能の正答率は目標値を上回り、おおむね良好である。5年生は区平均は上回ることができた。全体として、基本的な知識や技能は備わっている。                       | どの学年をみても、目標値を上回り、正答率はおおむね良好である。特に4年生・6年生は全国平均を大きく上回っている。 | 4年生・6年生の知識・技能の正答率は目標値を上回り、おおむね良好である。5年生は区平均は上回ることができた。                                          |

### ◎ 理科の今回の調査における課題

- ・第4年生は基礎問題・活用問題ともに目標値を上回っている。観点別・領域別に見てもすべて目標値を上回り、理科の学力は良好であるといえる。唯一、解答形式で記述問題のみ目標値を下回った。(区平均・全国平均は上回っている)
- ・第5年生も教科全体の正答率は区平均・全国平均を上回っており、おおむね良好である。「水のすがた」を理解しているかを問う問題の正答率がかなり低く、知識の定着に課題が見られた。

### ◎ 理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果◇と課題◆

◇観察や実験の結果をグラフ等で表す活動を行ったことで、測定結果を表す技能が身に付いてきている。

◇児童自らが問題解決することを目的とした、問題―予想(予想理由)―実験計画―実験―結果―考察といった学習の過程が定着した。

◇空気や電気、光など見えないものを絵や図で表すなど考察の仕方にも工夫を取り入れたことで、少しずつ科学的な考え方が身に付いてきている。

◆科学的な見方考え方を高めるために、ICT機器等を活用して、友達の考えを聞き、自分の考えと比較したり、新しい考えを取り入れて広げたりすることに課題がある。

◆実験道具を充実させ、少ない人数で実験や観察が行えるようにしていく必要がある。

### ◎ 理科の具体的授業改善案

○自然環境・実験環境の整備…学年間の連携を図りながら、年度を見通した学級園や校内自然環境、理科室の整備を行う。

#### 中学年

- ・問題意識をもちやすいように体験的な活動を多く入れて、身近な生活と結び付いた学習を行う。
- ・観察場面や実験の予想を立てるとき等にICT機器を効果的に活用して、児童同士で情報共有を積極的に行う。
- ・観察記録、実験記録などにおいても、分かったことや考えたことを自分の言葉で記述させたり、表・図に表したりさせる。
- ・理科支援員と協力し、実験や観察をスムーズに行いたい。

#### 高学年

- ・日常生活との関連を重視し、主体的に問題を見付け、解決していく活動を通して事物・現象の性質や規則性を実感させる。自然の事物・現象についての科学的な見方や考え方を養う。
- ・昨年までに引き続き、問題―予想(予想理由)―実験計画―実験―結果―考察といった学習の過程の定着を図る。
- ・科学的な見方、考え方を高めるために、友達の考えと自分の考えを比較したり、それを取り入れて考えを広げたりする。そのためにICT機器を積極的に活用して、情報交換する機会を確保する。
- ・少人数で全員が実験に参加できるように、実験道具の数を増やしていく。
- ・実験結果を正確に考察し、自分の言葉でまとめていくようにしたり、表・グラフ・図に表したりさせる。